

本県秋冬期におけるチャ新品種の耐凍性

秋冬期における品種ごとの耐凍性の強さを評価することで、新品種の効率的な秋冬期防霜が可能となる

背景・目的

- ・本県では、秋冬期に凍霜害を受けやすい大隅地域を中心に、春期に加え秋冬期にも防霜を実施
- ・秋冬期におけるチャ芽耐凍性の獲得は、品種で早晚性あり
- ・秋冬期におけるチャ芽の耐凍性の強さを評価する手法は未確立
- ・新品種の栽培面積は増加中だが、新品種の耐凍性は不明

成果の内容

- ・新たな評価法は、耐凍性が弱い「ゆたかみどり」と「さえみどり」、強い「かなやみどり」を基準品種にすることで耐凍性の強さを5段階で評価できる(図1, 表1)
- ・新品種の耐凍性は、「なんめい」が弱, 「はると34」がやや弱, 「せいめい」「さえあかり」は中, 「きらり31」「なごみゆたか」が強である(表1)

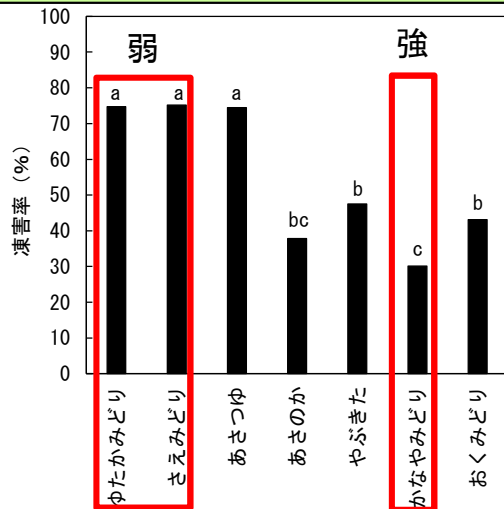


図1 人為低温処理 (-8°C) による秋冬期における品種別の凍害率

注)異なるアルファベット間は、TukeyのHSD検定により5%水準で有意差あり (逆正弦変換後の数値で検定)

表1 秋冬期における品種別耐凍性の5段階評価

秋冬期における耐凍性の強さ	新品種	県奨励品種 (優良品種)
弱	なんめい	ゆたかみどり さえみどり あさつゆ
やや弱	はると34	
中	せいめい さえあかり	
やや強		やぶきた おくみどり
強	きらり31 なごみゆたか	あさのか (さきみどり) かなやみどり はるみどり

期待される効果

- 品種に応じた秋冬期防霜が可能
- 節電・節水によるコスト削減



- 普及対象・範囲
県内茶生産者及び茶業技術員

鹿児島県農業開発総合センター
茶業部栽培研究室